

ALL DOSHISHA教育推進プログラム 成果・経過報告会

グローバルマインド養成を目的とした
日本人学生と外国人留学生との
共修プログラム



2019年6月20日（木）
理工学部・理工学研究科

1. 背景 – 理工学部・理工学研究科の国際化の現状 –

- 国際科学技術コース (**ISTC**) の開設 (大学院のみ)
→英語のみで学位取得可能なコース
- 学部間協定の締結: **30**機関 (※調印手続き中含む)
うち、ダブルディグリー (DD) 協定校: **14**機関
うち、**T.I.M.E.**※加盟校: **12**機関



※**T**op **I**ndustrial **M**anagers for **E**urope Association

→国際的な理工系エンジニア・マネージャーを養成する欧州の主要理工系大学のコンソーシアム

日本では、東北大学、慶應義塾大学、同志社大学、横浜国立大学のみが加盟

	種別	人数
ISTC受入実績 (特別学生含む)	一般入試、学部間協定交換留学、国費等	211
協定校派遣実績	DD、長期、短期	48



2019年6月1日現在

2. プログラムのコンセプト

典型的な日本人学生と外国人留学生の交流プログラムからの脱却

* これまでの交流プログラムのイメージ・・・

“日本人学生” = ボランティア、“外国人留学生” = お客さん (?)

→ 日本人学生と外国人留学生が **対等に学べる場** を！

* 共修プログラムでは・・・

双方のニーズを満たしながら対等に学ぶ

日本人学生

- ✓ 留学先情報を取得
- ✓ 留学に対する意識改革
- ✓ 将来のキャリアをイメージさせる国際体験



外国人留学生

- ✓ 日本でのキャリアを意識した日本語習得環境
- ✓ 留学生が主体的に活動できるプログラム

3. プログラムの特長

- ✓ 日本人学生と外国人留学生のPBL型共修プログラム
- ✓ 日本人学生と外国人留学生双方のニーズとシーズのマッチング
- ✓ 研究以外での学部生と大学院生の共修という新しいコンセプト
- ✓ 学生主体の柔軟で多様なプロジェクトの創出



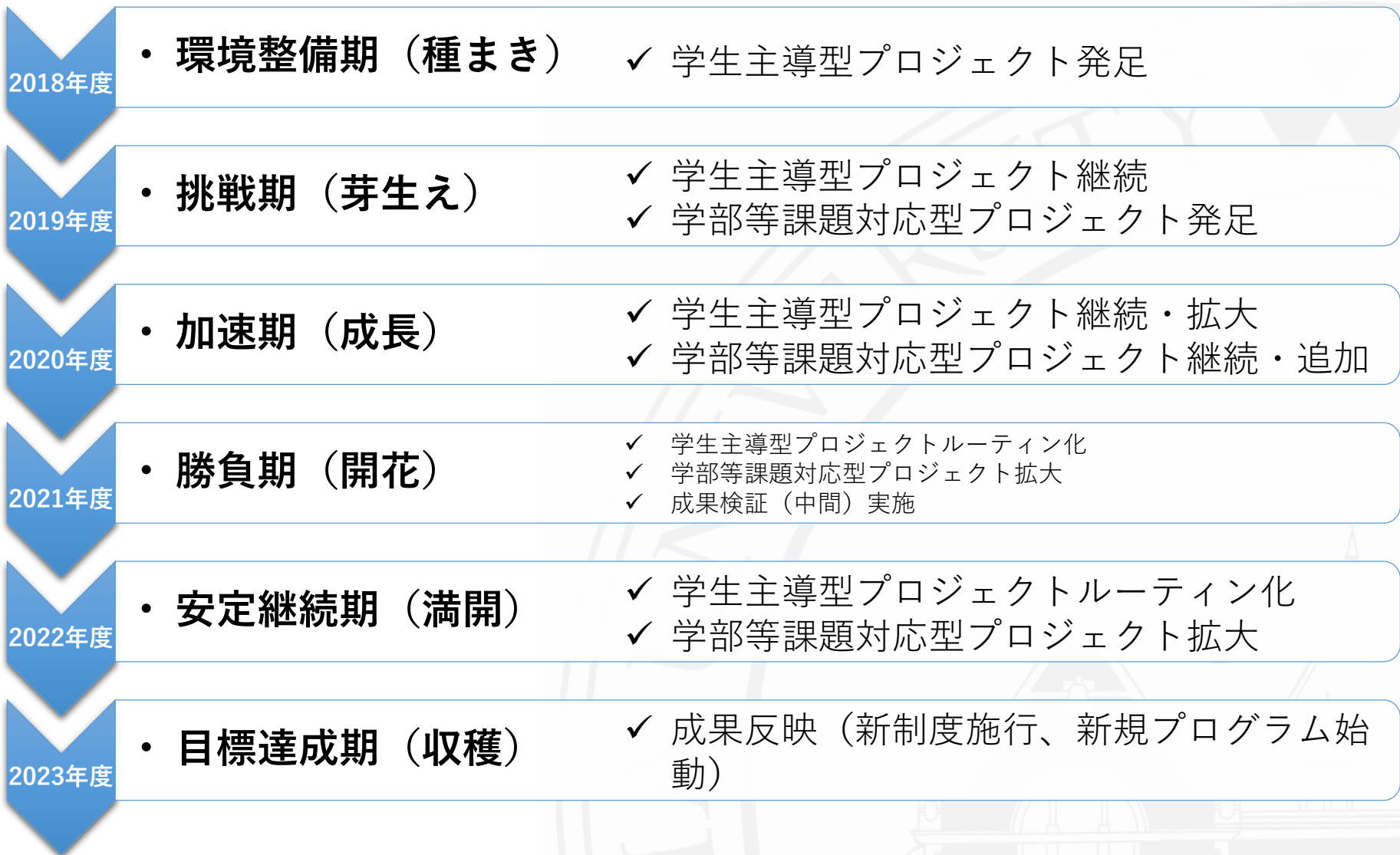
グローバルな視野

多様性の尊重

異文化理解

グローバルマインドを持った真の国際人の養成

4. プログラム全体スケジュール



5. 2018年度実施スケジュール

- 3月24日 成績配布時にプログラム紹介チラシ配布
 - 4月 2日 新入生向け説明会開催
 - 5月25日 プロジェクト参加・企画募集説明会
 - 6月 8日 参加申込・プロジェクト案・テーマ募集締切
 - 6月15日 テーマ決定・役割分担の打ち合わせ
 - 7月11日 テーマ承認・プログラム実施開始**
 - 7月12日 決起集会
 - 9月20日 リーダー会議
 - 12月 5日 中間進捗発表会
 - 3月31日 初年度プロジェクト終了**
 - 5月24日 最終成果報告会
- 約9ヶ月間のプロジェクト

6. 2018年度実施プロジェクト

実施タイプ	プロジェクト名	グループリーダー (所属・年次)	グループ構成
①	理系留学の第一歩！協定校の魅力を発信しよう！	村井 大樹 (機械システム工学科・B3)	日本人学生：4名 外国人留学生：1名
②	PVP (パノラマ・ビュー・プロモーション) によるバーチャル研究室体験！ISTCの魅力を世界に発信しよう！	中原 凌汰 (機械システム工学科・B3)	日本人学生：5名 外国人留学生：4名
②	京都の伝統工芸を見学してみよう！ ～化学・工学の観点から～	高柴 涼 (化学システム創成工学科・B2)	日本人学生：3名 外国人留学生：2名
②	新幹線の裏側を探る！ ～日本のものづくりの最前線～	黒田 悠真 (電子工学科・B1)	日本人学生：3名 外国人留学生：1名
②	“English-based career orientation seminar for international students”	HERNANDEZ JAMES EDWARD II AQUINO (電気電子工学専攻・M2)	日本人学生：2名 外国人留学生：3名

日本人学生17名、外国人留学生11名の計28名が参画。

タイプ①：派遣留学生増加プロジェクト タイプ②：受入留学生増加プロジェクト

7. 2018年度実施プロジェクトの概要（1）

理系留学の第一歩！協定校の魅力を発信しよう！

* 受入留学生および留学経験者のインタビュー動画作成
(アドバイザー：宮本博之（機械システム工学科 教授）)

<本プロジェクトのポイント>

✓ **留学生の1日に密着！**

→留学生の日常から文化・考え方の違いを理解

✓ **パンフレットからは読みとれない“生の声”！**

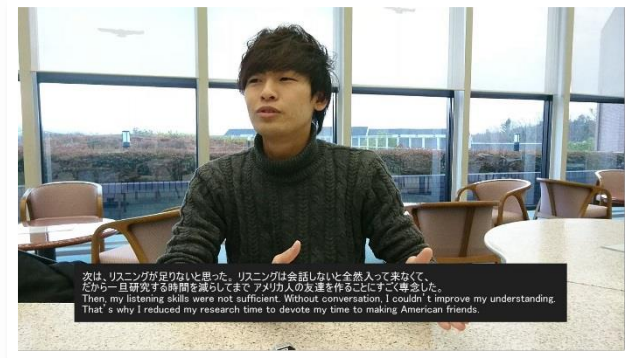
→学生目線の疑問をぶつけて答えを引き出し

留学に一步踏み出せない学生も訴求力のあるコンテンツ

✓ **動画コンテンツとして活用**

→いつでもどこでも閲覧可能。

年2~3回実施される説明会だけでは
ない恒常的なコンテンツとして
利用可能。



インタビュー動画より

7. 2018年度実施プロジェクトの概要（2）

PVP（パノラマ・ビュー・プロモーション）によるバーチャル研究室体験！ISTCの魅力を世界に発信しよう！

理系留学の第一歩！協定校の魅力を発信しよう！

＊国際科学技術コース研究室紹介

（アドバイザー：加藤恒夫（インテリジェント情報工学科 准教授））

＜本プロジェクトのポイント＞

✓ **ISTC生としての1日をバーチャル体験！**

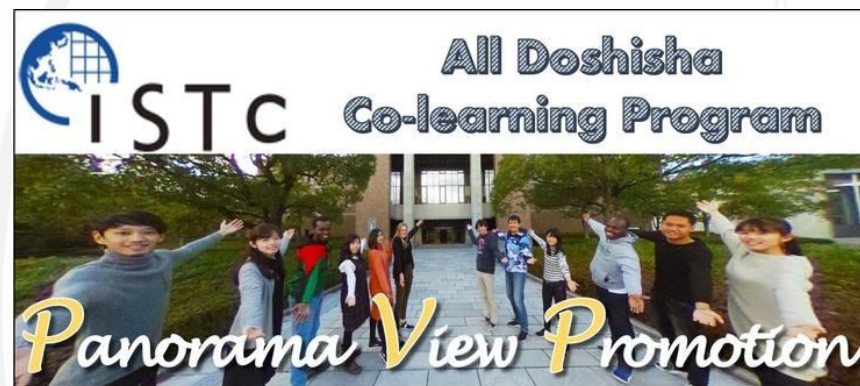
→留学希望者の獲得に貢献（大学の雰囲気を実感）

✓ **WEBコンテンツとして公開**

→学部・研究科WEBサイトだけでなく、facebookでも公開し拡散力に期待

✓ **拡張性の高いコンテンツ**

→今後も拡充・整備可能



コンテンツ公開中！

7. 2018年度実施プロジェクトの概要（3）

京都の伝統工芸を見学してみよう！ ～化学・工学の観点から～

* 国内企業工場見学

（アドバイザー：山本大吾（化学システム創成工学科 准教授））

<本プロジェクトのポイント>

✓ **正課科目だけではない学修機会の確保**

→主たるターゲットである外国人留学生へ正課外活動での学修機会を提供

✓ **すべてが学生主体の取り組み**

→企画・立案、事前アポイントメント、学生広報、当日スケジュール管理等すべてが“気づき”の機会



企業見学@HOUSE of HOSOO

7. 2018年度実施プロジェクトの概要（4）

新幹線の裏側を探る！～日本のものづくりの最前線～

* 国内企業工場見学

（アドバイザー：佐藤祐喜（電子工学科 教授））

＜本プロジェクトのポイント＞

✓ **正課科目だけではない学修機会の確保**

→主たるターゲットである外国人留学生へ正課外活動での学修機会を提供

✓ **事前学習から実践（見学）へ**

→事前学習の機会も確保し、予備知識を備えることで、より明確な成果に！

✓ **座学と実学の比較**

→大学の専攻分野が実社会ではどのように活用されているのかをリアルに体験



企業見学@東海旅客鉄道株式会社 浜松工場

7. 2018年度実施プロジェクトの概要（5）

“English-based career orientation seminar for international students”

* 留学生向けキャリアセミナー

（アドバイザー:山根省三（環境システム学科 准教授））

<本プロジェクトのポイント>

✓ **外国人留学生の出口戦略にフォーカス**

→日本語能力が不十分（∵英語で学位取得なコース）なISTC所属学生固有の悩みの解決につながる企画へ

✓ **外国人留学生の進路選択に寄与**

→日本企業の文化や制度を正確に理解することでミスマッチを解消

✓ **異文化理解の促進**

→海外と日本の就職事情等の違いを日本人学生・外国人留学生ともに学ぶ



ラーニング・コモンズ（京田辺）にて

8. プログラム進捗状況

<到達目標>

2018年度（初年度）は“**環境整備期**”

= 今後の循環のきっかけとなるプロジェクトの創出

→派遣留学生および受入留学生の増加につながる企画を
複数プロジェクト実施し、検証可能な体制を整備

<実施状況>

- 日本人学生17名、外国人留学生11名の計28名が参加
（日本人学生は学部1～2年次生が中心）
- 計5つのプロジェクトが完遂
（最終成果物も複数創出）
- 成果報告会を通じた“**気付き**”の共有
（共修環境ならでの学びも）

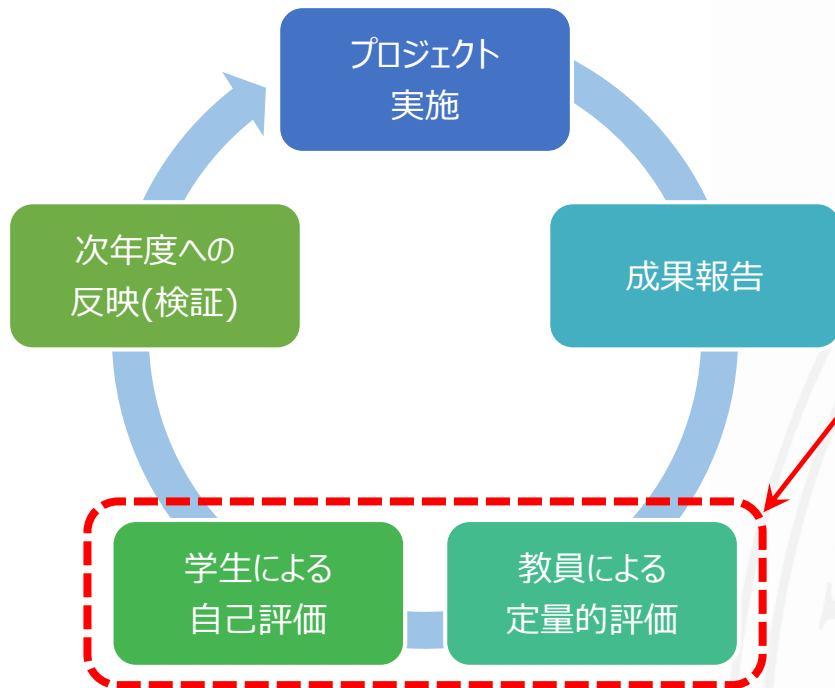


2019年5月24日 成果報告会の様子

9. 今後の展望（1）

【短期的展望】

2018年度“環境整備期”から2019年度“挑戦期”へ
→年度別プロジェクトを基点とする好循環の形成



【教員による評価基準】

実施内容、プロジェクトの成果、組織運営力、経費妥当性の4項目を5段階評価

【学生による自己評価基準】

「グローバルマインド」：グローバルな視野、多様性の尊重、異文化理解

「社会人基礎力」：主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、想像力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握能力、規律性、ストレスコントロール力

以上の計15項目が共修プログラム参加前後でどれだけ変わったかを5段階で自己評価

【中期的展望】

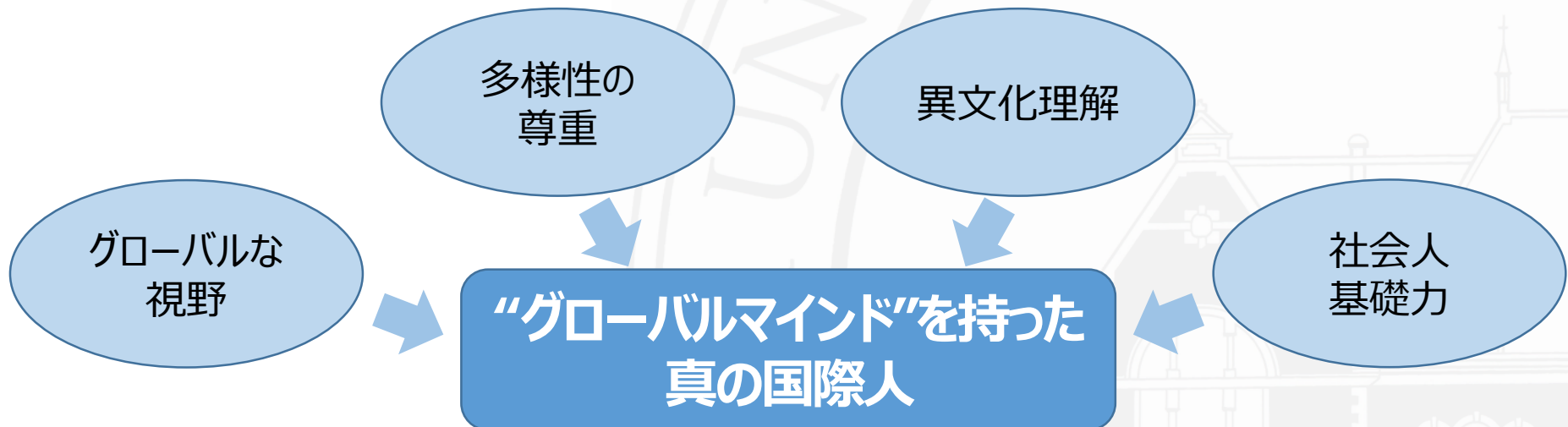
過年度参加学生のサポーター任用制度創設

→現行プロジェクトへのアドバイスを通じた実践活動

9. 今後の展望（2）

【長期的展望】

- ✓ 共修プログラムでの学びを全学生へ
→「教育効果の検証」、「共修における教授法確立」を経て正課科目へ
→ISTCに日本人学生も入学可能な制度へ改革
- ✓ 共修プログラムを通じた人材養成
→社会の要請に応じた基礎知識が豊富な応用力の高い学生



ご清聴ありがとうございました
引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします